

二〇〇九年度国文学会彙報

△国文学会研究発表会・講演会

二〇〇九年一月一日(日) 弘風館2F25教室

・研究発表会

創作探偵小説への試みと「読者」の表象

——『新青年』懸賞探偵小説と江戸川乱歩

「二銭銅貨」を中心に――

漣夢大(本学大学院博士課程前期課程)

『諸道聴耳世間狙』における浄瑠璃作品の利用について

——「要害は問にあはぬ町人の城廓」を中心に――

王欣(本学大学院博士課程後期課程)

・講演会

琉球の国文学について

末次智(京都精華大学准教授)

△講演会△ 院生部会主催

二〇〇九年一〇月二六日(月) 寧静館五階会議室

江戸時代の書籍文化

鈴木俊幸(中央大学教授)

△文学散歩△ 学生部会主催

・第一回 「源氏物語のまち・宇治」 二〇〇九年二月六日(日)

源氏物語ミュージアムなど

・第二回 「大坂×大阪」 二〇〇九年二月二日(日)

四天王寺など

二〇〇九年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会△ 学生部会主催

二〇〇九年四月六日(月) 京田辺校地生協食堂

△国文学会総会・研究発表会△

二〇〇九年六月二八日(日) 寒梅館2F203教室

・総会

・研究発表会

回帰する装幀——『氷島』以後に於ける萩原朔太郎装幀考——

内田大貴(本学大学院博士課程前期課程)

戦後的「デカダンス文学」の形成

——流行作家 坂口安吾をめぐって——

福岡弘彬(本学大学院博士課程前期課程)

『梁塵秘抄』二七七番歌の配列と流沙葱嶺

松沢佳菜(本学大学院博士課程後期課程)

中学校での随筆指導——学習指導要領改訂を前に——

戸川郁子(大津市立北大路中学校教諭)

△同志社国文学△

第七一号 二〇〇九年二月一〇日発行

収載論文八編

第七二号 二〇一〇年三月二〇日発行

収載論文八編

△国文学会会報△ 第三七号 二〇一〇年三月二〇日発行

二〇〇九年度修士論文題目

芥川龍之介の作品における比喩表現

—— 童話を中心に ——

陳 智 瑜

『源氏物語』における「俗聖」

—— 「宇治十帖」の描く幻影 ——

篠 原 三 穂

二〇〇九年度卒業論文題目

柿本人麻呂羈旅歌八首の構成

小 林 歩 美

笠郎女の表現

櫻 井 ち ひろ

—— 相聞歌の真相 ——

『丹後国風土記逸文』浦嶋子伝説にみる玉匣と禁忌について

中 川 裕 香 子

日本人による梅の花の受容

—— 奈良時代から平安時代中期を中心に ——

上 田 未 由

『落窪物語』の復讐について

北 村 志 穂 梨

夕顔のゆかりに関する一考察

—— 植物・色彩から見る ——

平 賀 美 穂

葵上の位置づけと夕霧の誕生の意義

秘められた藤壺の思い

逸 民 あ ず さ

紫上の苦悩を引き継ぐ女性たち

『源氏物語』における花散里の機能

明石の君に課せられた役割

明石入道

櫻 田 真 穂

—— 娘に託す将来 ——

『源氏物語』における女三宮

—— 人物像と役割 ——

羽 畑 祐 希

理想の正妻、女三宮

—— 思ふにあかぬところなき女人 ——

北 浦 一 美

『源氏物語』の六条院空間について

—— 組み込まれた女性達の力 ——

竹 本 智 子

女君たちの「源氏物語」

—— 第二部の構想に関する考察 ——

平 寛 之

夕霧は何故宇治十帖の主人公になれなかったのか

辻 岡 友 絵

『源氏物語』における絃楽器

早 坂 美 奈 子

『源氏物語』における絵画の受容

内田 有香

訓読漢語「白露」の平安文学における受容について

——『源氏物語』を中心に——

小澤 園子

『今昔物語集』における超越的存在

松田 真実

『今昔物語集』巻第十九―第二十四話

「代師入太山府君祭都状僧語」の独自性

國岡 美貴子

高藤説話における虚構

辰巳 理紗

『徒然草』における月

福井 景子

『平家物語』武士における最期

木谷 優志

『高倉院殿鳥御幸記』と『平家物語』に見る「物語性」

謡曲〈泰山府君〉論

市川 大揮

謡曲『三山』考

稲垣 美保

——構曲と主題の視点から——

平岡 明佳

謡曲「夕顔」における『源氏物語』の中世的受容

——引用と謡曲独自の表現方法をめぐって——

高山 あゆみ

『平家物語』が能に与えた影響

——平知盛と斎藤実盛の物語から——

岩井 優佳

慈童説話と能楽

——不老不死の喜びと苦惱——

『田植草紙』考

——田主讚め歌を中心として——

今西 綾加

御伽草子——「蛤の草紙」の独自性

瓜と桃の聖性

畑山 千夏

——「瓜子姫」と「桃太郎」を起点として——

井原 悠

猿蟹合戦の比較研究

——仇討ち型における各地域の特徴を踏まえて——

柳川 明子

近世小袖と古典文学

——不可解な図柄に注目して——

平城 里佳

波兔紋様の研究

——謡曲『竹生嶋』の意匠化とその浸透——

平木 結衣

近世広告文研究

——引札と古典文学について——

岩崎 あゆみ

天草物における妖鏡

——『傾城鳥原蛙合戦』と『堪忍記』——

中里 亜沙望

お初と徳兵衛はなぜ心中したか

——悲劇『曾根崎心中』——

高内 奈緒子

『忠臣金短冊』について

—— 初期忠臣蔵物浄瑠璃の視点から ——

八百板 朋子

上方落語『千早ふる』に於ける太夫「千早」

の成立と生き方について

川 又 夕

近世文芸と人作化物

四 田 瞳

草双紙にみる能筆家と「書」

—— 『真字・草字のくらゐ争ひ』を中心として ——

岸 沙 織

森島中良研究

—— 広がるその影響 ——

大 川 佳 子

『彩入御伽草』と小平次譚

—— 脚本化による小平次譚と一人二役の融合 ——

廣 井 怜 子

漂流記『船長日記』船頭重吉像の再検討

—— 供養碑建立をめぐる ——

溝 口 愛

遍歴小説の研究

—— 地獄物と異国物 ——

丹 羽 良 恵

日本文学と人魚伝説

—— 怪異と悲哀 ——

侯 野 奈 穂

劇作家と役者

—— 河竹黙阿弥と尾上菊五郎にみる ——

細 田 紗 代

九代目市川團十郎『勸進帳』弁慶における衣裳の変遷

丹 出 道 奈

歌舞伎舞踊の特性について

—— 『鏡獅子』を中心に ——

西 口 結

芥川と『除睡鈔』

—— 近世仏書との関わり ——

岩 本 悠

歌舞伎における赤姫とは

—— 『女形百姿』から見る赤姫十六人 ——

吉 村 早 希

歌舞伎の舞台を作るもの

—— 大向うの発生とその在り方 ——

岩 崎 彩 香

「舞姫」「普請中」にみる浦島世界

二葉亭四迷

—— ベリンスキー理論および哲学的蹉跌に

村 上 俊 行

支えられた「小説総論」

「消えた美しい不思議なにじ」における不幸

と幸福の対立に込められた未明の想い

上 野 あゆみ

—— 未明童話の暗さの理解のために ——

『清兵衛と瓢箪』における志賀直哉の自我

上 原 悠 輔

『智恵子抄』初期の詩におけるキリスト教の影響について

高木美佳

「人形」と『青塚氏の話』

岡 瑠衣

《お辰》から《春琴・佐助》へ

大谷 剛司

——《下寺町》がとりもつ「春琴抄」と世

話人形浄瑠璃劇——

内田百閒「山高帽子」

野田 紫帆

——分裂する自己——

佐藤春夫『美しき町』

渡 辺 幹子

——「3」という数字をめぐる——

鏡にまつわるエトセトラ

鶴 田 知宏

——江戸川乱歩『鏡地獄』論——

モチーフでたどる人々の記憶

楠 海 緒

——江戸川乱歩「押絵と旅する男」論——

「注文の多い料理店」における自然対文明の対立構図

宮沢賢治「貝の火」考

山 根 さゆり

——「道徳」という思い込み——

『疾中』文語詩考察

戸 田 茜

中村 早江

人間・梶井基次郎論

——『冬の日』『のんきな患者』における表 森 静香

——現と思想の変遷——

発禁の時代と「村の家」——中野重治「村の家」論

國 友 星志

太宰治「娼捨」からみる太宰治論

——「生きよう」とする太宰 谷川岳に捨 中本 雅子

——「千代女」を中心に——

太宰治作品における《書く女性》について

八 尾 穂波

——理想郷としての健康道場

——「トカトントン」論

——書簡に隠された「嘘」と「言い訳」——

死を以て華となす

庄野潤三 夫婦小説から家庭小説への過程

『氷点』における「子ども」の役割

遠藤周作の宗教文学におけるエッセイ的文体と自己救済

奥 名 宏 紀

野 口 大 介

山 下 吉 章

東 徹

高 畑 光 公 子

井 島 基 成

安部公房『カンガルー・ノート』論

西井孝典

——「都市への解放」と異端排除——

星新一「いそつぷ村の繁栄」に見る寓意

野村真太郎

澁澤龍彦『うつろ舟』論

——仏教とニーチェ、『豊饒の海』へのオマージュ——

田中茉莉恵

「忍ぶ川」志乃に関する新考察

松井利真

——対比構造による純粋さの表現について——

『ガラスのうさぎ』について 体験記から児童文学作品へ

杉村藍

「本当」と「ウソ」とが相睦まじくある為に綴る試し書

——大江健三郎「奇妙な仕事」とその時代 辻野広彦

との関係に寄せて——

『フルウェイの森』における死について 友利芙美

村上春樹にとっての一九九五年

——阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件を 高羽文月

通じてのコミットメント——

村上春樹『海辺のカフカ』論

鳥義典

ケンに投影された村上龍の本音

——『69—sixty-nine——』に見える対称性 黒髪宜嗣

と二つの「あとがき」をもとに——

子どもの成長と「せつない」「媚」の関わりについて

——山田詠美短編集『晩年の子供』を中心に——

奥野亜里沙

「小春日和の時代」の終わり

——ポスト・フリッパーズ文学としての『アメリカの夜』

南端集平

『今昔物語集』の強調表現

小説の冒頭部分の文の傾向 岡澤彩

正倉院文書に見える色名

——「赤」「黄」「青」「黒」「白」「緑」「紫」を中心に——

朝倉真理

「御伽草子」の「あはれ」

林ゆかり

国産自動車の塗装色名の特徴について

竹澤啓二

家庭版医学百科における病気の名称

——語構成を中心に——

吉沢桃子

近年の子どもの名前に見られる特徴

村田恵

谷川俊太郎の詩におけるオノマトペの特徴について

——新川和江・大岡信の詩と比較して—— 富嶋香里

マンガにおけるオノマトペの考察 小淵祐太

映画広告のキャッチコピーの変遷 北尾文

——50年間の新聞を用いて——

新聞見出し・ファッショ誌に見る「かわい
い」の意味・対象 服部純子

新聞における住宅広告のキャッチコピーの変遷

——語彙の変化を中心に—— 依田典子

テレビ番組において男性が使用する女性語 山上智子

——おネエ言葉について——

大学生の言葉の使い分けについて 鈴木則宏

——男女差を中心に——

小学校用国語教科書における複合辞の用例と分析

フリーダイヤルの語呂合わせ 東里年郎

日本における韓国料理名の表記について 小森結香

漫画における振り仮名の機能 李榮恩

映画題名における文字表記の変遷 山北智美

——洋画と邦画の比較——

清水美沙

新聞見出しの表記と語彙

——第一面・経済面・生活面を比較して—— 綾裕恵

テレビ番組における文字テロップの使用法 下村恵美子

——バラエティ番組と報道番組の比較——

大阪府交野市の中学生の方言使用について 田中絵梨

——待遇表現を中心に——

京都方言を中心とした「イッパイアッテナ」の広がり 福場千夏

浄土真宗本願寺派『正信偈』における節博士の特性について 平井淑子

自然談話におけるフィラーとあいづちについて

木下順二の戯曲における独自表現の傾向についての考察 益田真衣

佐藤栄里子